



災害の防止と消防活動の安全を誓う

平成二七年度殉職消防職団員慰霊祭

題 字
初代会長 松野 盛吉
定 価 1部 48円
(購読料は年会費に含む)

発行人
〒010-0951
秋田市山王四丁目1番2号
秋田地方総合庁舎内
秋田県消防協会
会長 中田 潤
電話 018-867-7320
FAX 018-863-5910
<http://www.shoubou-akita.or.jp>
E-mail:ask@shoubou-akita.or.jp

印 刷
〒010-0951
秋田市山王7丁目5-29
株式会社 松原印刷社
電話 018-862-8760
<http://www.matsubarainsatsu.co.jp>



平成二七年度(第八七回)殉職消防職・団員慰霊祭が、八月二六日(水)午前十一時から秋田市千秋公園本丸の「八幡秋田神社」において、秋田県消防協会が祭主となり執り行われました。

慰霊祭には、ご遺族の方一三名のほかご来賓、消防協会役員など五四

名が参列しました。

慰霊祭は、招魂などの神事後、中田潤秋田県消防協会長が「招魂碑に合祀されております四五柱の御霊は、郷土の平安と地域住民の安心・安全を願い、我が身の危険をも顧みず勇猛果敢に懸命な消防防災活動を遂行するなか、尊くも職に殉じられました。不屈の消防魂をもって最後まで消防人としての職責を全うされたその崇高な精神は、県内消防人の鑑であり、今も私達の心に生き続け、皆が等しく賛辞するところであります。われら消防人は、郷土愛護の精神と強固な団結力をもって、御霊のご遺訓を胸に、一致団結して厄災を防止し、地域住民の安全・安心のため最善の努力を尽くすことを誓う」と祭主祭文を奏上しました。



平成二十七年度全国統一防火標語
**無防備な
心に火災が
かくれんぼ**

堀井啓一

秋田県副知事はご来賓を代表して「殉職者の皆様が身をもって示された崇高な精神と果敢な行動は、着実に本県消防人の間に受け継がれております。私たちは、皆様の御功績を心から讃えるとともに、その御遺志に



えるためにも、今後とも消防力の充実や、防災体制の強化に努め、県民の安全と平穏な社会の実現に向け、全力で取り組むことを誓う」と慰霊のことばを述べられました。

公益財団法人日本消防協会長と秋田県市長会長のメッセージの紹介に続き、玉串奉奠が行われ、中田会長、ご遺族を代表して由利本荘市の大友一様、ご来賓の方々が御霊の冥福を祈り、最後に送魂の神事が行われ、慰霊祭は滞りなく終えました。



**第六九期初任教育入校生
殉職消防組員招魂碑を清掃**
秋田県消防学校

秋田市千秋公園本丸に建立されている「殉職消防組員招魂碑」の清掃は、毎年、秋田県消防学校初任教育課程の情操教育の一環として行われています。

今年も、八月二六日(水)開催の慰霊祭に先立ち、二四日(月)に七八名の入校生らによって行われました。

清掃は、碑内の玉石を移動させて枯れ葉やゴミを除去したり、碑周囲の雑草などを取り除いたほか、碑に付着したコケなどの汚れを水をかけて洗い流しました。清掃後、参加者全員が「招魂碑」に向かい黙とうを捧げました。

入校生の皆さんありがとうございました。

第二回理事会 秋田県消防協会

公益財団法人秋田県消防協会第二回理事会は、八月二十六日(水)、平成二七年度殉職消防職・団員慰霊祭終了後、秋田市中通の「イヤタカ」で開催されました。主な協議事項、報告事項についてお知らせします。

【協議事項】

①日本消防協会定例表彰の上申

表彰旗、竿頭綬などの表彰(功績章及び精績章の女性枠各一名を含む)については、各支部内申のとおりに上申することとしましたが、特別表彰まとい、優良婦人消防隊(消防隊員)に関しては、支部からの内申はありませんでした。

②秋田県消防協会定例表彰

すべての表彰が各支部から上申のとおりに授与することが承認されました。

- ・ 勤続章 五八九名
- ・ 功労章 四六名
- ・ 消防団員家族表彰(本年度新設)



一〇家族(三〇名)

③秋田県消防協会役員等の推薦に

関する取扱方針の一部改正
評議員の構成を次のとおり見直しすることとしました。
なお、現在無役の消防団長九名は、評議員に就任することになります。

区分	現行	改正後
消防職員等	一〇	三
消防団長	一一	二〇
副団長	七	五
計	二八	二八

次回の評議員改選時(平成二八年五月予定)から適用します。

④秋田県消防操法大会出場順の抽選

これまで毎年五月開催の理事会において、各支部長が抽選を行っていたが、出場する各支部の代表選手等が抽選する方法に変更することとしました。

・ 抽選の時期、場所

支部大会終了後、八月中旬ころまでの間に秋田市内で行います。

・ 審査員からの伝達

併せて、事前練習及び大会の注意事項等について伝達します。

・ 実施の時期

平成二八年度の大会から実施します。

⑤消防団員の入団促進

高橋博英理事(秋田県総合防災

課長)から現況についての説明があり、各理事・監事から団員の定年制、団員の処遇等について様々な意見が出されました。

なお、本件については、一二月に開催する「全県消防団長研修会」の課題討議・意見交換のテーマとすることに決定しました。

【報告事項】

①平成二七年度消防車両の交付要望

各支部から四台の要望がありました。共済加入率や車両保有状況また、交付車両は全国で七七台となっていること等を考慮し、本県から二台要望することとしました。

②第二回全国女性消防団員活性化

佐賀大会

一〇月二十九日(木)～三〇(金)佐賀市で開催される大会に、本県から女性消防団員一名など一九名が参加します。

③平成二七年度秋田県女性消防団

ネットワークショップ会議

十一月十九日(木)に開催、講演は、日本DPAT事務局「心理的応急処置について」に決まりました。

④全県消防団長研修会

十二月一日(木)に開催します。研修の内容は、報告発表・講演・課題討議、意見交換などを予定しています。

⑤消防団員研修

■第五期女性消防団員研修

十一月七日(土)～八日(日)

場所…秋田県消防学校

■消防団員指導員研修

十一月二十八日(土)～二十九日(日)

場所…秋田県消防学校

■消防団員幹部教育指揮幹部科

分団指揮課程

二月二十七日(土)～二十八日(日)

場所…秋田県消防学校

■消防団員基礎教育

三月五日(土)～六日(日)

場所…秋田県消防学校

※日本消防協会主催の研修は秋田県消防協会へ、消防大学校が開催する研修は県総合防災課にそれぞれお問い合わせ下さい。



第11回 消防団員 意見発表会(二)



大島 昌良

・秋田市消防団
分団長
・勤続二十八年
・会社役員

秋田市西部地区を管轄する分団長として、若手団員育成や実効性のある消防団活動の探求に日夜努めています。

「分団長としての心得」

新屋分団の分団長を拝命している大島と申します。今日は分団長として日ごろ感じていることを述べたいと思います。

私は、平成一九年分団本部部长に平成二四年から分団長の任に就いております。当分団は、昨今定年による諸先輩の退団が相次ぎ、現在は団員数二六名の所帯です。その団員のほとんどは会社勤めで、緊急時の団員招集には苦勞の連続です。そこで、どうしたら少数精鋭で新屋分団員が職務を遂行できるのか日ごろ考えていることを述べたいと思います。

先ず第一に、分団員の団結と士気の高揚です。消防団員の活動は、ボランティア

であるといえども団員の手綱を緩めることなく、半分強制的に統率して活動に従事させていかなければならないと思います。また、地域の安全安心に努め、かつ、消防団員としての士気を高めていかなければならぬ。そのためにはどうすれば良いのか。それに対してやはり手近な方法は昔からの「飲めや歌え」の場を設けて、団員の日ごろの活動に対する発散の場を設けることが大事と考えております。この時ばかりは、団員の違つた一面がみられ団員から元気を貰い受けます。

次に、全団員のポンプ車操作の習得です。もし火災の出動要請があり、その時機団員の居ない数人の平団員しか集まらない時はどう対応させたら良いのか。火災の時、町の住民は消防団員たる者誰もが放水出来ると信じて疑わないと思います。そのためにも私は、全団員がポンプ車を操作出来るように春・夏の駆け付け訓練等の機会に合わせ技術を習得させております。また、ポンプ車の操作については、これまで先輩からの継承でした。一度初心に戻る気持ちで、地域の消防署に向き、団員全員で操作方法を学び直しました。次に、痛切に感じるのは、操作方法を知らないということの恐ろしさです。昨年

火災出動した際、公園の中央にある防火水槽から小型ポンプで放水した

のですが、後で考えた時に、この時ポンプ車はどのように給水するのか疑問に思いました。道路から隔てていて、吸管が届かない。そこで消防署員に聞きました。回答は、道路際にある取水管から水を取り出すとのこと。目から鱗が落ちる思いでした。この取水管について、ちなみに知っている団員がいるのか全員に聞いてみたところ、誰もおりませんでした。防火水槽に水を入れるためだけの管だと思っていたのです。連結するためには、そのままでは出来ません。備え付けの工具を使い、消火栓につなぐ吸管の金具を取り外し、連結しなければなりません。みんなで試行錯誤を繰り返して練習しました。漫然と伝統的に同じ訓練を繰り返していたのですが、色々な知らないことを掘り起こし、検証することが大切だと思いました。

第三に、団員の適材適所の配置です。

私は、本来年齢に関係なく分団の勤続年数に応じ、分団の要職に就くべきだと考えております。しかし、地域の分団員は様々な職種の人たちの集まりであり、配下の団員の指導や活動報告書の作成並びに会計の記帳などに対し、不得意な団員もおります。その方たちが意に反してその様な要職に就いた時は、必ず団員相互間に不協和音が生じます。その様な弊害をなくすため、団員の理解を

得て、その人に合った部署に就くよう心配りをしております。以上が日ごろ分団長として心砕いているところです。

当分団では、昨年度以来火災らしい火災もなく、平穏な毎日を過ごしております。今後も何事もなく枕を高くして眠れる日々が続くよう願うこの頃です。



佐々木 譲

・にかほ市消防団
副分団長
・勤続二十六年
・会社員

何事にも責任感が強く、オールマイティーに仕事をこなす。地域活動、教育活動にも密着し、誰からも信望厚い副分団長です。

「帰ってきました消防団へ」

私が消防団に入団したのは、高校を卒業して直ぐの年でした。所属していた部は、総会の時はスキーをしながら安比高原やニセコ等に行っていたため、あらかじめ旅行代金を積み立てしていました。まだ高校生なのに、集金に連れてられて払っていたのです。その時点で、消防団への入団は確定のようなもので、当時は、現在のような活動服ではなくて、半纏に地下足袋のスタイルでしたが、気付けば自宅に届いていました。

高校を卒業したばかりですから勿論未成年でした。新兵講習を修了してポンプ小屋に行くと、先輩団員たちからの歓迎会と称して飲みや食いやで、ちなみにつまみは缶詰や厚揚げでした。飲んだことがなかった私は、大変な思いをしながら自宅へ帰ったことを覚えています。毎日朝早くから夜遅くまでの練習は、朝起きるのが苦手な自分にとっては、辛い毎日でありましたが、社会人一年生の自分にとっては、大会後に行く慰労会、山形県の湯野浜温泉での思い出は、社会勉強の一つとしての大事な部分であったと思います。それが何なのかはご想像にお任せします。そんなこんなで約一年所属していたのですが、一身上の都合により退団することになりました。

ここからです。自分の消防に対する考え方が変化していったのは、退団後三年が過ぎた頃、結婚を機に自宅へ戻ることになりました。結婚式の席で当時の部長と副部長が酒を注ぎに来たとき、「消防さ入らねが、後一年で終わるから」と言ってきた。自分も戻ったら入団する気持ちでいたため「いいよ」と直ぐ返事をしました。入団すると団員数がやたら少なく、なぜか聞くと「このまま残っていてもいつ辞めれるかわからない、部落とも相談して消防団をなくすことにしたが、様々なことを考えて、残ってもいいよと言う人だ

け残って存続していた」との事。その後一年が過ぎようとした時に、部長と副部長から食堂へ呼び出され「俺だ、あと辞めるが頼むな」と一言、「えっ」と思いましたが何ともならず引き受けるが、「はめらいだ」という気持ちでした。再入団して段階を踏むことなく、一年目で部長になってしまったのでした。最初は、防火週間初日早朝の駆け付けには団員が誰も来なく、一人でポンプ小屋の掃除や積載車のタイヤ交換などをやり、街頭宣伝にも参加しと、そのような状態で二年位頑張ってきていましたが、段々皆が分かってくれて集まって来るようになりまして。

少ない人員の中で、地域の消防団を頑張って維持していたのだが、地域の方々からの協力を受けられないまま活動を行っているのに、大会の練習用で作っていただいた水槽を片付けると言われたりと、決して気持ちよく活動していたわけではありませんでした。自分は、それなりの歳であります。ほかの団員たちはまだ若いのに部落の名前を背負って活動している若者たちを認めてほしいと思っていました。自分も、絶対見返してやろうと思ひ、熱心に消防団活動に努めてきました。今では、部落民では初の消防団幹部になりました。少しは誇れるかな?と思ひます。これからは、自分の経験を生かし

ながら、同じような境遇の班があれば助言をしつつ、盛り上げていきたいと思ひます。



田中 勲男
・大仙市消防団 班長
・勤続一九年 公務員

小型ポンプ操法など積極的に消防活動に参加。市職員として消防団事務を担当した経験もあり、団幹部からも厚い信頼を寄せられている。

「消防団入団のきっかけと現在の心得について」

私が消防団に入団したきっかけは、職場の上司から強い勧めがあったからです。今から一九年前、私が太田町役場職員として採用になって四年目のことです。朝はだいたい機嫌の悪い上司が、その日に限って明るい口調で「田中君少し時間いいかな」と内線電話をかけてきました。何かあるかと察した私は、不安な気持ちのまま応接室に向かいました。そこには、ご機嫌の上司と困った表情の分団長の姿がありました。そこで私は、その二人に消防団入団を促されました。入団についてはいづれ断るつもりでしたが、その後も上司から入団を促され、分団長は両親を説得させようと家までやって来まし

た。結局、消防団のいろはもわからないまま入団を決意してしまったのです。

入団から数年後、小型ポンプ操法で一番員を練習し、初めて実際に放水した時のことです。筒先から放たれる水圧に強い衝撃を感じました。制御できない筒先は、まるで暴れまわる大蛇のようになってしまい、周囲の方たちを水浸しにさせてしまいました。不安を抱えたままの訓練大会は案の定、喜劇的なポンプ操法となってしまう。大会当日の姿は、ヘルメット、活動服、グリップの効いていないただの軍手、地下足袋でした。ホース展開の時です。右手でしっかりと掴んだはずのオス金具、あろうことか放り投げてしまったのです。パニック状態の私は、とにかくホースを結合することで必死でした。火点に水が放たれ、やっとな収納となったのですが、今度は、ヘルメットが邪魔になってなかなか筒先を背負うことができませんでした。やっと思指揮者の「わかれ」の号令のときには、吹き出る汗と、激しい息切れの中、私の心と体は、今まで味わったことの無い疲労感でいっぱいでした。操法終了後は、終わっただと思ふ安堵感、一緒に操法に参加した団員への申し訳ない気持ち、この操法が太田町消防団で永遠に語り継がれる伝説になるのではないかと、いう羞恥心、こんな悔しい気持ちで

いっぱいでした。こんな気持ちを観察してか班長は「うちの班は楽しい消防、ゆかいな消防でいこう」と声をかけてくれました。この言葉に救われました。折れかかった心が救われた瞬間でした。そして時が過ぎ、平成二〇年六月に、私は、班長となりました。

さて、団員確保のため平成二五年に法律が施行され、公務員の消防団入団が促進されました。これを受けて大仙市では、団員を募り、現在では、私を含め四二名の団員が在籍しております。こんな私達ですが、災害が発生した場合、防災計画の参集基準のもと災害対策にあたらなければなりません。このため、災害の状況によっては、職場の立場を優先させなければならぬのです。そこには、防災計画の中の職責と、団員として果たすべき役割について、論じなければいけない課題があります。

消防団は、災害時に、火災の消火や救援、救助活動を行います。また、住民の避難誘導や安否確認の協力も行います。隣人関係が疎遠になりがちな地域において、消防団は、なくてはならない組織、そして地域活動の一環なのです。消防団に理解を示す職場が増え、いろんな職種を抱えた方々が入団し、活躍されることを切に願います。

最後に班長としての心得です。勤

務体系、労働状況は団員がそれぞれ異なりますが、人命と財産を守る本来の消防精神のもと、「楽しい消防、ゆかいな消防でいこう」この言葉を胸に、消防活動を共にする団員との絆を一層深め、地域の安心安全のため活躍できる団員を目指したいと思えます。



高橋 良昭

・横手市雄物川消防団
副分団長
・勤続三一年
・農業

地域でもリーダー的な存在になり、諸先輩方も退職していく中、副分団長の役職を任命され現在にいたる。

「集落の中の消防団」

今この季節、私たち消防団員にとって消防訓練大会に向けて最も熱い季節がやって来ました。朝早く集まって規律訓練の練習を行うチーム、夕方に集まって暗くなるまで小型ポンプ操法の練習を繰り返し行うチーム、そして消防器具置き場において夜更けまで頑張るチーム、この夜の訓練は、消防団員の精神力と体力を鍛えるのに欠かせません。部長や班長、先輩団員の話を通して聞き入れる訓練、これは消防団員にとって最も必要とされる忍耐力を鍛え上げま

す。いわゆる聞く力、若しくは聞き流す力、それを養うわけです。

次に、体力も同時に鍛え上げなくてはなりません。器具置き場のコンクリートの地べたにブルーシートを敷き、あぐらで車座に座り、注がれた酒を飲み続ける、ひたすら飲む、これは蚊に刺さされながら足のしびれと、お尻の痛さを克服すること、そして何より肝心要である肝臓を鍛える、その鍛え上げた体力をいつ発揮するかは別にしても、消防団員にとっては重要な訓練であると私は思っております。

私は消防団に携わって三〇年余りになりますが、入団のきっかけは、隣の集落の住宅火災でした。時期が晩秋で夕方六時頃、サイレンの音が聞こえるのでポンプ置き場の方へ行ってみると、集落の消防団の人たちが今まさに軽トラの荷台に、ポンプを積み込もうとしているところだったのです。「隣の集落で火事だ出動する。良昭手伝え」と言われトラックにポンプや吸管、ホースや管操などの積み込みを手伝いました。そうしたら、「良昭、早く乗れ」とまたもや言われ、「いやこれから行くところがあって出かけなくてはならないのだが」と思いつつ辺りに居た人たちの「早く行け」という言葉にほだされ、乗りかかった船だという思いでトラックに飛び乗ってしま

さて集落を抜け、田園地帯を貫く一直線に伸びた道路、夜の冷たい空気の中を軽トラはうなりながらスピードを上げて行きます。荷台にしっかりとつかまりながら、前を見ると一キロメートル先の闇の中に、赤々と燃え上がる火柱と、高々と立ち上がる煙と火の粉、恐ろしいくらいそこだけが明るい光景が目に見え込んできました。ポンプを積んだ軽トラは、火災の現場より約百メートル手前に停車し、車を降りてみると私と団員三人合わせて四人、この四人でここからどうやってこの器材をあそこまで運ぶのだろう、大変だなと思っていたところ「よし、田んぼを突っ切るぞ」の声、「え、嘘だろう、どうやってこの重いポンプや器材をこの人数で、しかもぬかるんだ田んぼを」と思ってしまったところ「一人が管操とホース二本、もう一人が吸管、そして二人でポンプを持つことになったのでした。」「行くぞ」の号令で四人は一気に田んぼへ駆け下り、暗い田んぼは火災の炎に照らされ稲株のすじと水溜まりがごろうじて見える中、ぬかるんだ田んぼを四人は全力で走る、二歩進んではぬかるみ三歩進んでは足をとられ、つんのめっては耐え、走りながら足を止めたらしど、もう動けなくなる、最初は「気を付けろ」とか「ゆっくり行けよ」と、声を掛け合っていたのに、最後はビチャ、ビチャ、

ビチャという長靴の音とハアーツ、ハアーツ、ハアーツという激しい息づかいしか聞こえなくなったところで、四人は泥だらけになりながら無事五〇メートル余りを走りぬいたのです。その後、吸管を結合し、ホースを二線延長し、ポンプは一発始動して放水することが出来た時の達成感、そして大変さはその後忘れられない出来事となりました。

年が明け、三月になって先輩団員二人が訪れ、団員に欠員が出るという事で入団の勧誘に来られました。「イヤーツ、この間の火災の折は手伝ってもらってありがとう、頑張ってもらってすごかったな」などとお礼を言われ、ほめ倒されたわけです。私は入団すれば時間の制約がかかるんじゃないか、また、規律や先輩たちが厳しいんじゃないかと悩んだ一方、何か地域や集落のためになるのであればやってみようという気持ちもあつたため、家族の了解を得て、先輩たちの下に参加することを決意したわけです。

昨今の消防団においては、課題が山積しております。施設や装備の充実が図られる一方で、団員不足、団員の高齢化や就労形態の多様化による訓練参加や練習調整の難しさなど。

そのような中、今宵も、我が消防器具置き場では、夜の訓練が繰り返られることでしょう。

第69期 初任教

実務研修を 終えて

秋田県消防学校



舘岡 拓海
五城目町消防本部

今回の実務研修は泊まりの勤務の二回目で、さらに自分が勤務していた乙部の方だったので、なおさら気合いが入り、消防学校で学んできたことを存分に発揮していきたいと意気込み実務研修に臨みました。

午前中は消防車の資器材点検を行い、それが終わってから午後の訓練では、火災防ぎよの訓練を行いました。活動内容は、消防車一・二号車が出動し、一号車が先に到着し、一線ホースを延長し放水を開始、二号車は一号車から後方に離れた所に位置し、そこにある自然水利に吸管を投入し一号車までもう一人の隊員とホースカーを使い、ホースを延長しホースを連結した後、一号車から二線目のホースを延ばした先に二又分水器を取付、両先にホースを延長した後、連結し放水を行うという内容でした。活動を振り返ってみると、活動内容自体が理解できていなく、むしろ活動を遅らせてしまっていました。

した。次からは失敗しないように努力したいと思います。



鳥海 颯汰
湖東地区行政一部
事務組合消防本部

今回は二回目の宿泊研修でした。一回目は同期で先輩の畠山卓真さんが怪我でいなくなったため一人での研修でしたが、今回は怪我から復帰していたため、二人で実務研修に行くことができました。

午前中は車両点検、資器材の点検をした後に、ボートを組み立て川に浮かべて操作訓練をする予定でしたが、無線で出動指令が入ったため本部に戻ることにになり、ボートを解体して操作訓練を行わずに本部に帰りました。訓練中でも出動指令がかかってくることもあるので、それが実際に起きて良い経験をする事ができました。午後からは、結索訓練と放水訓練をやりました。結索訓練では、学校で覚えた結索を中心に訓練を行いました。結索は自分の命を守るときに使う場合もあるので、しっかり練習するようにと指導されました。放水訓練では、隊長の指示に従い、先輩の後ろについて動きまわりました。今は先輩の後ろについて行くだけでいいのですが、これからは一人一人の役割や動きを理解して行動できるようになりたいです。



平塚 龍聖
横手市消防本部

今回の実務研修では、新たに知識を増やすことができた。訓練では、ホース展張と放水訓練を行い、新たに狭所ホースの作成方法を習った。自分は今まで二重巻きホースと島田折りしか知らなかった。この狭所ホースを教わったことで、階段等の狭い場所でも余裕ホースを作ることなくホースに水を入れることができ、一人で自由に向きを変更したり、火点との距離を今までもよりも簡単に移動することができるようになった。また、今回は前日に起きた火災の現場へ同行させてもらった。現場に着き、直ぐに防火水槽へ水を補充した。いつでも万全の状態で行動できるように前もって準備しておくことは大事なのだと再認識した。実際に火災が起きた場所は、消火してから時間が経ったにもかかわらず、今だ熱を帯びており、何度も現場調査をすることの大切さを知った。次に結索の訓練を行った。結索は、何度も繰り返し行っていたので、ある程度の自信はあったが、先輩方から、結び目等で多くの指摘を受け、今以上に努力しなければならぬと実感した。



田 仲 純 平
にかほ市消防本部

今回の研修で私は、応急はしご救出や屋内進入要領、中継要領など様々な訓練を行いました。その訓練で色々なことを注意され、自分が力不足だと感じました。

色々な失敗をした一日でしたが、前回の実務研修より自分で考えて行動できたと思えました。もっと消防の仕事の内容を覚えて、与えられた仕事をしっかりとできる人間になりたいです。

夜になってからは、通信勤務につきました。午前一時から二時半までの勤務で、とても眠くなる時がありました。遅い時間も起きていなければならぬ仕事なので、少しずつ体を慣らしていきたいです。一日だけでしたが、自分の課題がたくさん見つかった研修でした。



奈 良 春 樹
鹿角広域行政
組合消防本部

鹿角広域消防本部は新しい庁舎になり、最新の設備となっていました。それが第一回実務研修と比べて

大きく異なるところで、優れた環境の下で実施できることに、やりがいを持ちながら取り組めました。

午前中は、市民の方を対象とした、救急講習に参加しました。心臓マッサージとAEDの取扱いについての説明と体験が主で、基本的な内容となっておりましたが、翌週に救急実技の効果測定を控えているというところもあり、意欲を持って取り組みました。

午後からは、ホース展開要領の訓練を行いました。学校で習っていた方法と少し異なるところもあり、上司から指導をいただき、これから勤める所属で訓練内容を知ることができて良かったです。

夕方には、車両火災が発生し、通信室でお手伝いをしましたが、新しい設備に驚くばかりで、役に立つことはできませんでした。

しかし、ほんのわずかでしたが、消防学校で培ったことを生かされたので達成感を忘れずに働いていきたいです。



渡 部 勇 貴
男鹿地区消防一部
事務組合消防本部

三回目の実務研修で、前回一日の流れを掴むことができたので、緊張

せずに取り組むことができたのではないかと思う。

午前中に救助工作車の資器材の点検を見学した。授業で習ったチェインソーや油圧器具の点検を見て、どこに何があるのかと、どういうふう

に組み立ててあるか完成形をしっかりと覚えるよう言われた。午後は車庫清掃を行った。車両を全部前に出して、高圧洗浄機で洗流す作業だった。定期的に掃除をして車両から出る油漏れの痕跡を見たり、今までと違うところに痕跡が残っていたら、車両の点検をしたりしている

と聞いて勉強になった。その後、基本結索を行った。最近、結索の練習をしていたので、だいぶ出来たと思う。

夜の受付の勤務は、一二時から二時までを担当した。夜中に受付に来る人はいなかったが、少し緊張した。

これで実務研修は終わってしまうが、残りの一ヶ月で吸収できることは全て吸収して、万全の状態です。所属に戻りたいと思います。



トーハツ消防ポンプ
モリタ自動車ポンプ
消防被服全般
秋 田 県 代 理 店

総合防災設備センター

株式会社 高 義 商 会

(営業種目)

- トーハツ小型動力ポンプ
- モリタ自動車ポンプ
- ジェットホース
- 消防被服全般
- 消防防災報知器各種
- 消 火 器 各 種

〒012-0105 本社 湯沢市川連町字万九郎屋布32
TEL(0183)(42)2125
〒012-0844 湯 沢 市 田 町 TEL(0183)(73)2588

株式会社 夕 力 吉

秋田県横手市寿町1番28号
TEL (0182)(32)3880

(営業種目)

- 日本機械自動車ポンプ
- トーハツポンプ
- 各種消防機械器具
- 消防設備保守点検
- キンパイホース
- シバウラポンプ
- 各種消火器

ホームページ <http://www.17.ocn.ne.jp/~takagi/>
E-mail ykttkg@jasmine.ocn.ne.jp

支部情報アラカルト

新しい防災拠点

新消防庁舎が完成

鹿角広域消防本部

現消防庁舎は、昭和四九年に建設され、地域の消防業務を長年にわたりに担ってきたが、施設の老朽化に加え、耐震不足も判明したことから、平成二五年四月から新消防庁舎の建設が進められました。

新消防庁舎は、環境負荷の低減効果が期待できる地中熱利用による冷暖房・床暖房システムを採用しています。また、多種多様な災害に対応するための訓練施設を充実させ、より迅速で的確な司令業務を支援する通信指令センターを整備しました。移転先は、災害時に防災拠点となる鹿角市役所や鹿角警察署、医療拠点となる臨時離着陸場が整備された、かづの厚生病院周辺に立地し、八月一日から業務を開始しま



新消防庁舎

した。各拠点近辺となった利を生かし、顔の見える関係の構築、さらなる情報共有・協力体制の確立、ヘリポート警戒時の早期現場到着が可能となります。新消防庁舎には、消防団長室を設け、消防団との連携がさらに強化されました。また、庁内には、消防団応援自動販売機が設置されており、自動販売機の売上げの一部が消防団の活性化事業に寄附され、消防団員の福利厚生など消防団の活動に役立てられています。



消防団長室

新消防庁舎が開署したことにより、これまでの一本部、一消防署、二分署体制から、一本部、一消防署、二分署、一出張所体制へと変更になりました。これを機に、住民の安心と安全を守るため、職員一同、日々の業務や訓練に、より一層励んでまいります。



自動販売機

(情報提供 鹿角支部)

火災の発生状況 (速報値)

(秋田県総合防災課調べ)

	平成27年		平成26年			同期比較	
	8月	累計	8月	累計	年計	8月	累計
建 物	15	132	9	144	199	6	-12
林 野	3	37	1	45	46	2	- 8
車 輛	6	30	4	23	29	2	7
その他	13	65	4	60	77	9	5
合 計	37	264	18	272	351	19	- 8
死者数	0	30	1	27	35	- 1	3
負傷者数	4	54	2	53	61	2	1

消防 半天・帯・団旗
優勝旗・ゼッケン
手拭・タオル・のれん
旗幕類名入染物専門

寺 田 染 工 場

横手市清川町 ☎32-0416

森田ポンプ ラビットポンプ
桜ホース・ソフト吸管 消防被服一式
各種消火器 消防機器一式

株式会社 能代消防センター
株式会社 協 立

〒016-0814 能代市能代町字中川原33番地57
TEL (0185) (52) 6494
(52) 6361

地域の防災、災害対策に貢献!

消 防
ポンプ自動車
小型ポンプ
ホース

設 備
火災報知器
スプリンクラー
消火器

猿田興業株式会社

秋田市山王六丁目1番24号 TEL 018 (863) 1551(代)
山王セントラルビル7F FAX 018 (824) 3651